

日本記者クラブ加盟各社各位

報道関係各社各位

2021年10月4日

日本眼科啓発会議

アイフレイル世代に聞いた「目の健康に関する意識調査」

全国40代以上の男女13157人が回答。50代で5割超が「目に不自由を感じている」

日本眼科啓発会議は、加齢による目の機能低下「アイフレイル」の予防啓発活動の開始にあたり、アイフレイル世代となる40代以上を対象に、目の健康に対する意識や行動、目の病気の知識度、病気の予防意識、眼科受診の頻度やきっかけなどを把握するため、全国で「目の健康に関する意識調査」を行い、13,157人から回答を得ました。

調査の結果を抜粋してご報告します。

<調査の概要>

- 調査手法 : インターネット調査
- 調査対象 : 調査会社のモニターより抽出した40～89歳の男女
- 有効回収数 : 13,157サンプル
年代、性別、都道府県について、人口構成に準じてサンプル設計
- 基本属性 : 性別…男性48.8%、女性51.2%
年代…40代27.4%、50代23.5%、60代27.7%、70代以上21.4%
地域…都道府県別にも分析可能なサンプル設計で実施
- 実施時期 : 2021年6月4日～6月7日

<主な内容>

1. 目に不自由や不安を感じている人は多いが、健康維持に努めている人は少ない
2. 目の検査を受けているのは6割。きっかけは「健康診断に含まれていた」から
3. 緑内障を「聞いたことがある」人は多いが、「説明できる」人は少ない
4. 緑内障と診断されたのは6.4%。その6割は「何も問題を感じていなかった」
5. 女性50代の7割超がアイフレイルを感じている
6. 「これまでの人生を振り返り、もっとこうしておけばよかったと思うこと」(自由回答)
7. 調査結果を活かして「アイフレイル啓発活動」をスタート

<調査結果の内容>

1. 目に不自由や不安を感じているが、健康維持のために何かしている人は少ない

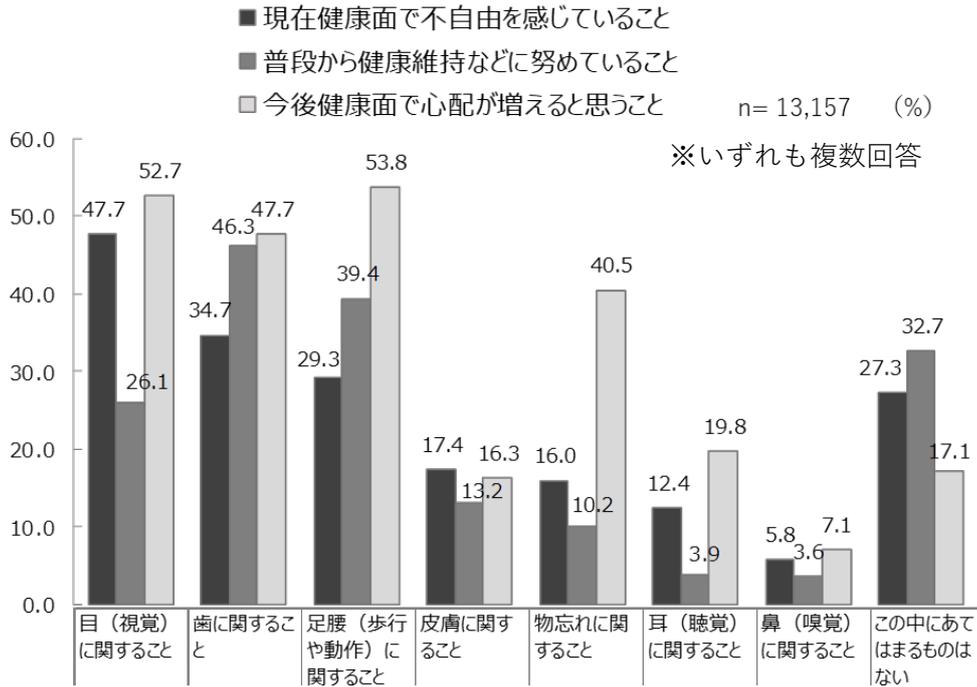
40代以上が現在、目に対してどのくらい不自由や不安を抱えているのか、歯や耳(聴覚)、足腰(歩行や動作)、物忘れなど7つの選択肢とともに示して、3つの質問をした。

1つ目は「現在、健康面で不自由を感じていること」は何か。トップは「目(視覚)に関すること」47.7%。「歯に関すること」34.7%、「足腰(歩行や動作)に関すること」29.3%が続く。

2つ目に、「普段から健康維持・病気予防に努めていること」を聞いた。結果は逆転し、「歯」46.3%がトップで、「足腰(歩行や動作)」39.4%、「目(視覚)」26.1%の順となり、目は歯よりも20ポイント低い。

3つ目で、「今後、健康面で心配が増えると思うこと」を聞いた。今度は「足腰(歩行や動作)」53.8%がトップになり、僅差で「目(視覚)」52.7%も半数を超え、「歯」47.7%が続く。

<健康面で不自由や不安を感じていること>



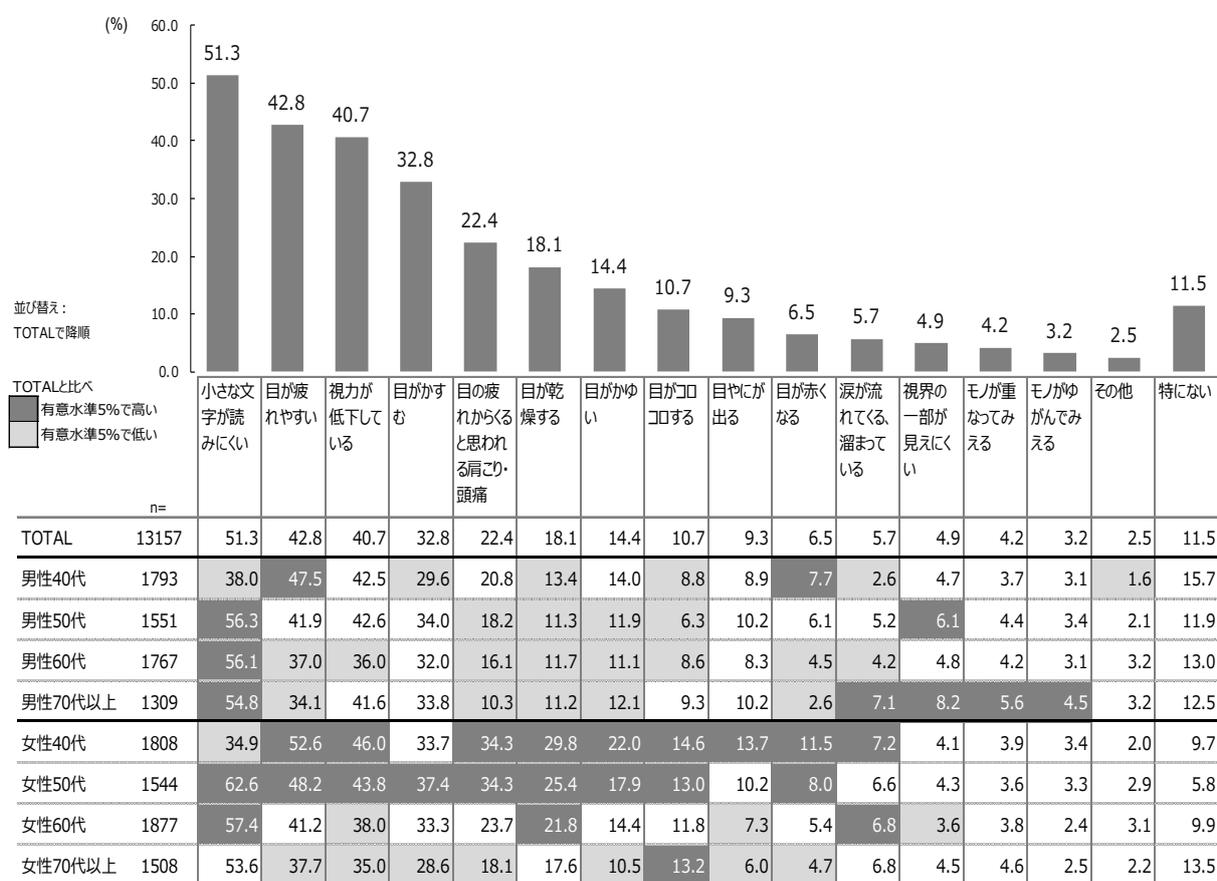
2人に1人が目に不自由や不安を感じているにもかかわらず、普段から健康維持・病気予防に努めている人は2割台に半減している。

アイフレイル啓発活動では、目の健康に対する関心喚起はもちろんのこと、目の病気の理解促進、自分の目のためにできることを伝えて行動を促進することを目指す。

2. 目の検査を受けているのは6割。きっかけは「健康診断に含まれていた」から

次に、具体的に、目にどのような不自由や不安があるのか、いくつかの症状の例を示して聞いたところ、最も多くの方が悩んでいるのは、「小さな文字が読みにくい」51.3%であることがわかった。「目が疲れやすい」42.8%、「視力が低下している」40.7%が続く。気になる症状が「特にない」と回答したのは11.5%、つまり9割近くが何らかの気になる症状があるという結果である。中には、病気を疑う深刻な症状が出ている人もいる。

<現在、目について気になっていること>



そこで、目の検査をどのくらいの人を受けているのか、聞いてみた。

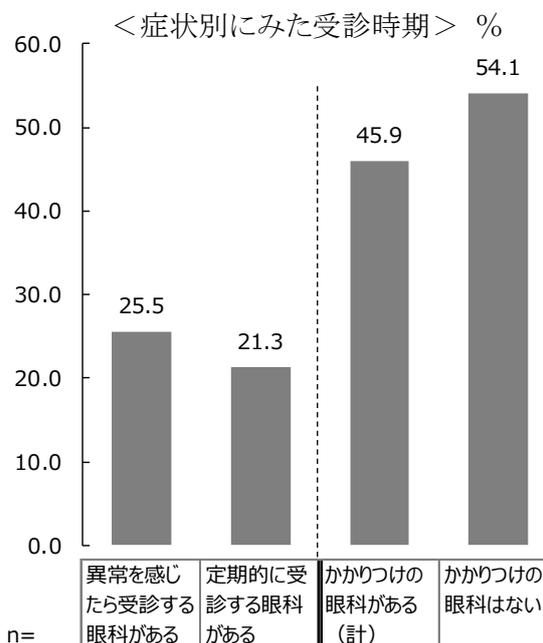
<目の検査を受けている割合>

	n=	■ 半年以内に受けたことがある	■ 1年以内に受けたことがある	■ 3年以内に受けたことがある	■ ここ3年は受けていない	□ 受けたかどうか、覚えていない	(%)	受けたことがある (計)
TOTAL	13157	26.9	17.6	11.7	39.4	4.4		56.2
男性40代	1793	19.6	18.9	8.5	45.0	8.0		47.0
男性50代	1551	22.6	18.6	9.4	42.9	6.4		50.6
男性60代	1767	27.6	17.5	12.6	38.5	3.8		57.7
男性70代以上	1309	36.4	15.5	11.6	34.1	2.4		63.5
女性40代	1808	21.7	17.6	12.6	42.6	5.4		51.9
女性50代	1544	23.0	18.9	12.8	41.6	3.7		54.7
女性60代	1877	28.4	17.0	14.0	38.1	2.5		59.4
女性70代以上	1508	39.1	16.1	12.3	30.0	2.4		67.5

3年以内に検査を受けているのは 56.2%。内訳は「半年以内」26.9%、「1年以内」17.6%、「3年以内」11.7%。「ここ3年は受けていない」は 39.4%である。

なぜ、検査に行かないのか。歯や足腰と何が違うのか。そのヒントを自由回答から探ることができる。「目は、症状の悪化に普段気が付かない」(男性 50 代)、「眼科にはほとんど行ったことがないが、歯医者さんの定期検診のようにたまに行った方がいいものなのか知りたい」(女性 40 代)、「歯科検診のように3か月に1回とか、何もなくても受診できるシステムがあると良い。今は具合が悪くないと保険受診ができない」(男性 70 代以上)などが挙がっている。

今回の調査では、かかりつけの眼科の有無についても聞いている。「異常を感じたら受診する眼科がある」が 25.5%、「定期的を受診する眼科がある」21.3%。一方、54.1%は「かかりつけの眼科はない」と回答している。



都道府県別の結果は以下のとおりである。

青森県(33.6%)、鹿児島県(37.7%)、沖縄県(37.7%)、大分県(39.5%)、宮崎県(39.7%)は
かかりつけの眼科がある割合が4割を下回っている。

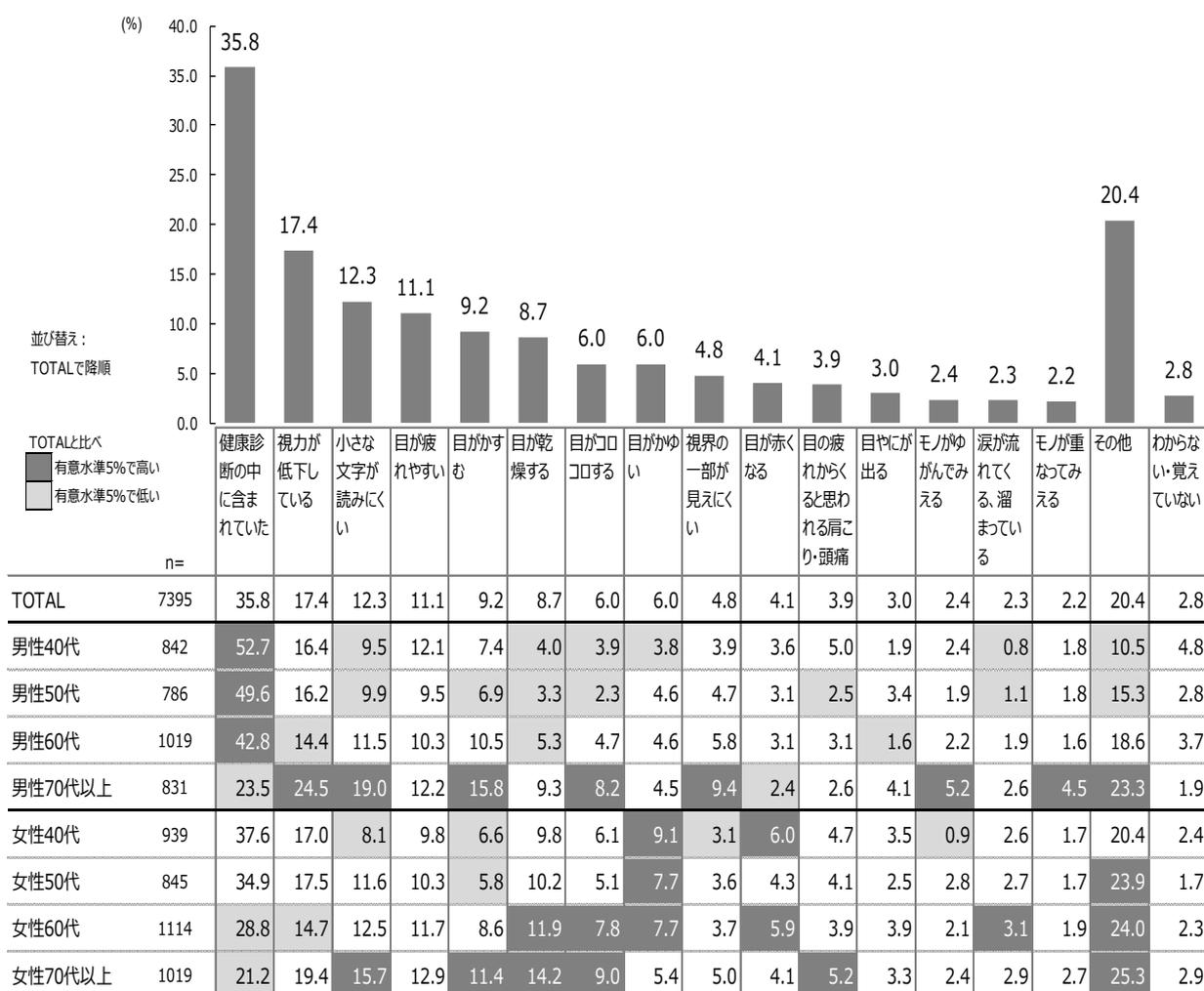
	n=	(%)			
		異常を感じ たら受診する 眼科がある	定期的に受 診する眼科 がある	かかりつけの 眼科がある (計)	かかりつけの 眼科はない
TOTAL	13157	25.5	21.3	45.9	54.1
北海道	578	24.7	22.8	46.5	53.5
青森県	146	22.6	12.3	33.6	66.4
岩手県	142	26.1	23.2	47.9	52.1
宮城県	227	24.2	21.6	45.4	54.6
秋田県	126	23.0	21.4	44.4	55.6
山形県	129	24.8	29.5	53.5	46.5
福島県	196	25.5	20.9	45.4	54.6
茨城県	306	24.8	21.6	44.8	55.2
栃木県	208	23.6	24.0	46.6	53.4
群馬県	207	30.9	19.3	49.3	50.7
埼玉県	753	23.6	20.1	42.9	57.1
千葉県	636	20.9	21.4	41.4	58.6
東京都	1285	26.3	22.6	47.5	52.5
神奈川県	917	23.2	22.7	45.1	54.9
新潟県	243	28.0	24.3	51.4	48.6
富山県	124	26.6	20.2	46.8	53.2
石川県	125	29.6	18.4	48.0	52.0
福井県	95	21.1	27.4	46.3	53.7
山梨県	94	24.5	26.6	48.9	51.1
長野県	221	25.3	22.2	47.5	52.5
岐阜県	206	24.8	20.4	45.1	54.9
静岡県	390	28.5	21.0	48.7	51.3
愛知県	724	25.4	22.1	46.8	53.2
三重県	192	29.7	23.4	52.1	47.9

	n=	(%)			
		異常を感じ たら受診する 眼科がある	定期的に受 診する眼科 がある	かかりつけの 眼科がある (計)	かかりつけの 眼科はない
滋賀県	143	23.1	26.6	49.0	51.0
京都府	257	28.4	17.5	44.7	55.3
大阪府	884	24.7	20.2	43.8	56.2
兵庫県	567	27.7	22.4	49.9	50.1
奈良県	154	29.2	22.7	51.3	48.7
和歌山県	117	32.5	21.4	52.1	47.9
鳥取県	77	42.9	7.8	49.4	50.6
島根県	88	22.7	25.0	46.6	53.4
岡山県	190	33.7	19.5	51.6	48.4
広島県	289	24.9	19.7	43.6	56.4
山口県	155	19.4	23.9	43.2	56.8
徳島県	98	41.8	13.3	54.1	45.9
香川県	114	30.7	24.6	54.4	45.6
愛媛県	154	32.5	17.5	50.0	50.0
高知県	92	21.7	22.8	42.4	57.6
福岡県	502	25.3	18.9	43.8	56.2
佐賀県	99	20.2	23.2	43.4	56.6
長崎県	151	32.5	20.5	51.7	48.3
熊本県	188	21.3	19.7	41.0	59.0
大分県	129	23.3	16.3	39.5	60.5
宮崎県	126	23.0	17.5	39.7	60.3
鹿児島県	175	18.9	20.0	37.7	62.3
沖縄県	138	18.8	19.6	37.7	62.3

では、検査を受けた人は、どんなきっかけで受けたのか、聞いてみた。最も多かったのが「健康診断の中に含まれていた」35.8%である。

性・年代別で見ると、60代の女性、70代以上の男女が2割台と低い反面、男性の40代52.7%と50代49.6%が高いことから、勤務先での健康診断である可能性が高い。

<検査を受けたきっかけ>



中には、自主的に検査を受けている人もいる。

いったいどんな理由からなのか、症状別に「半年以内」に検査を受けた割合が高いものに注目して分析したところ、「視界の一部が見えにくい」「モノがゆがんでみえる」「モノが重なって見える」が6割を超えて高いことがわかった。これらの症状は、深刻さを自覚させ、速やかな検査につながると考えられる。

<症状別にみた受診時期>

	n=	■ 半年以内に受けたことがある (%)	■ 1年以内に受けたことがある (%)	■ 3年以内に受けたことがある (%)
TOTAL	7395	47.8	31.3	20.9
目が疲れやすい	823	54.9	25.9	19.2
目がかすむ	677	56.9	20.4	22.7
目がかゆい	443	49.4	26.2	24.4
目が乾燥する	647	59.0	21.6	19.3
目が赤くなる	306	43.5	25.2	31.4
目やにが出る	224	54.5	21.4	24.1
目がコロコロする	446	52.2	24.4	23.3
涙が流れてくる、溜まっている	169	53.3	18.9	27.8
小さな文字が読みにくい	906	54.6	22.5	22.8
視界の一部が見えにくい	358	64.8	15.6	19.6
モノがゆがんでみえる	179	64.8	17.3	17.9
モノが重なってみえる	161	60.9	16.8	22.4
視力が低下している	1286	51.5	25.3	23.3
目の疲れからかと思われる肩こり・頭痛	292	53.1	22.6	24.3
健康診断の中に含まれていた	2650	39.3	44.8	16.0
その他	1511	62.3	18.7	19.1
わからない・覚えていない	209	35.9	33.0	31.1

3. 緑内障を「聞いたことがある」人は多いが、「説明できる」人は少ない

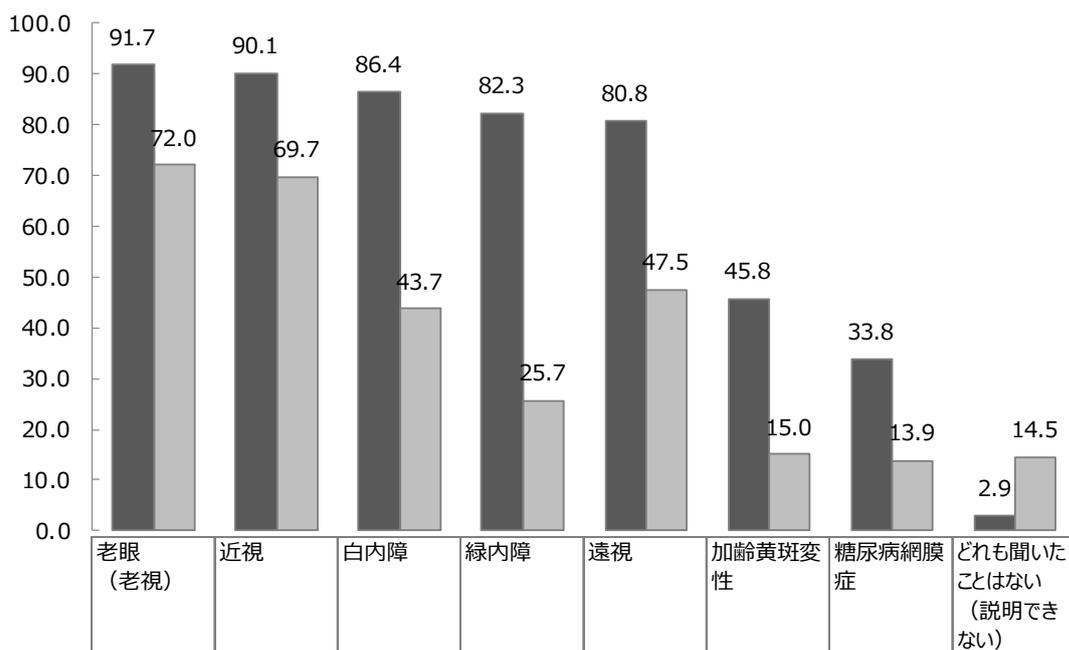
次に、目の病気についてはどのくらい知られているのか、いくつか提示し、「聞いたことがある」と「説明できる」の2つを聞いた。

「聞いたことがある」は、「老眼(老視)」91.7%、「近視」90.1%、「白内障」86.4%、「緑内障」82.3%が8割を超えている。一方、「加齢黄斑変性」は45.8%、「糖尿病網膜症」は33.8%と低く、いずれも聞いたことがない人の方が多い。

では、それぞれの病気について、人に「説明できる」か、聞いたところ、「緑内障」が25.7%と低く、認知度と理解度のギャップが最も大きいことがわかった。「加齢黄斑変性」と「糖尿病網膜症」もそれぞれ15.0%、13.9%と理解度はかなり低い。

<目の病気の認知度と理解度> (%)

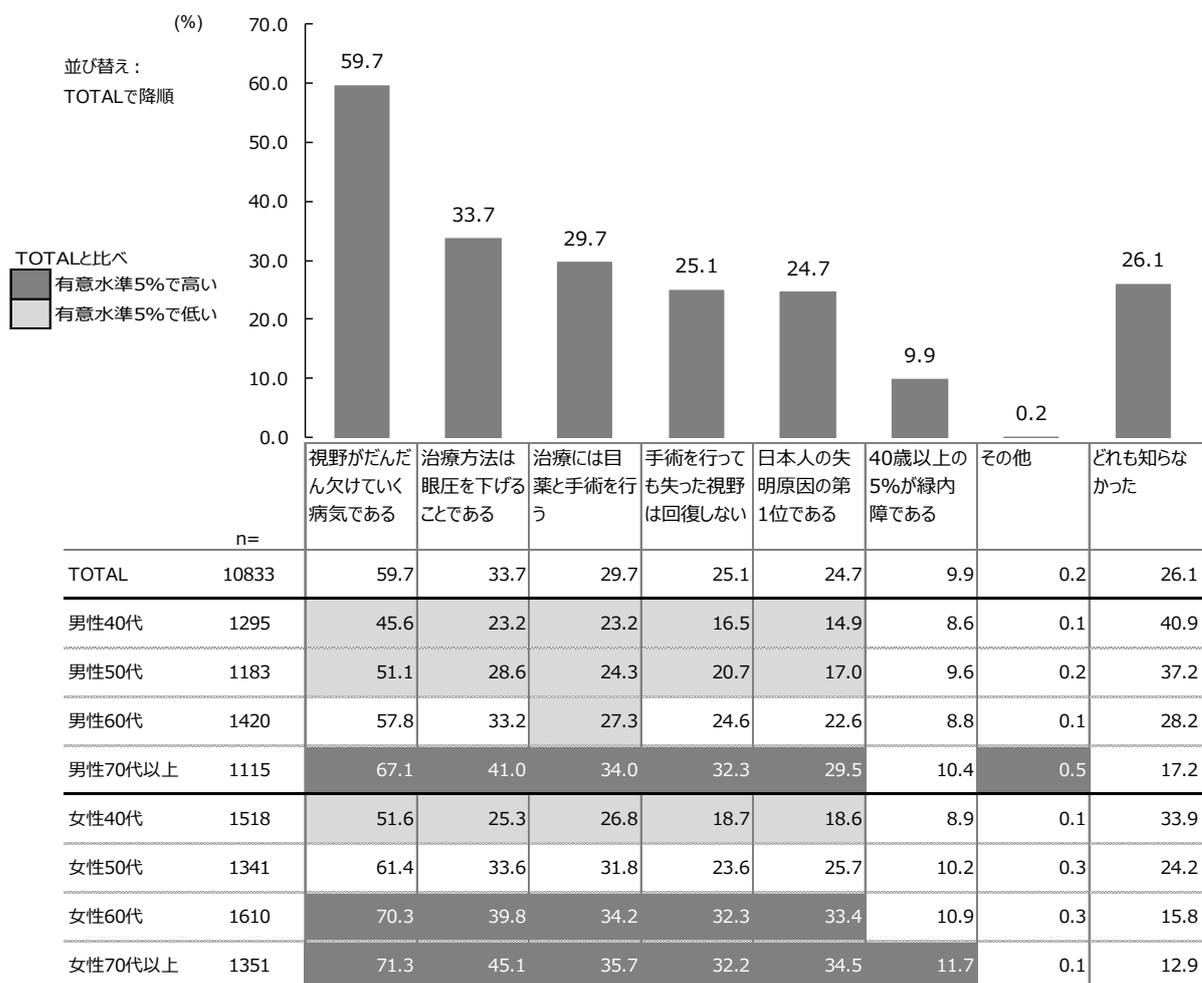
■ Q12 目の病気の認知 n=1315 ■ Q13 説明できる目の病気 n=1277



ただし、具体的に病気の特徴を示して知っているかを聞いたところ、緑内障については、「視野がだんだん欠けていく病気である」が 59.7%がトップで、「治療方法は眼圧を下げることである」33.7%、「治療には目薬と手術を行う」29.7%が続く。

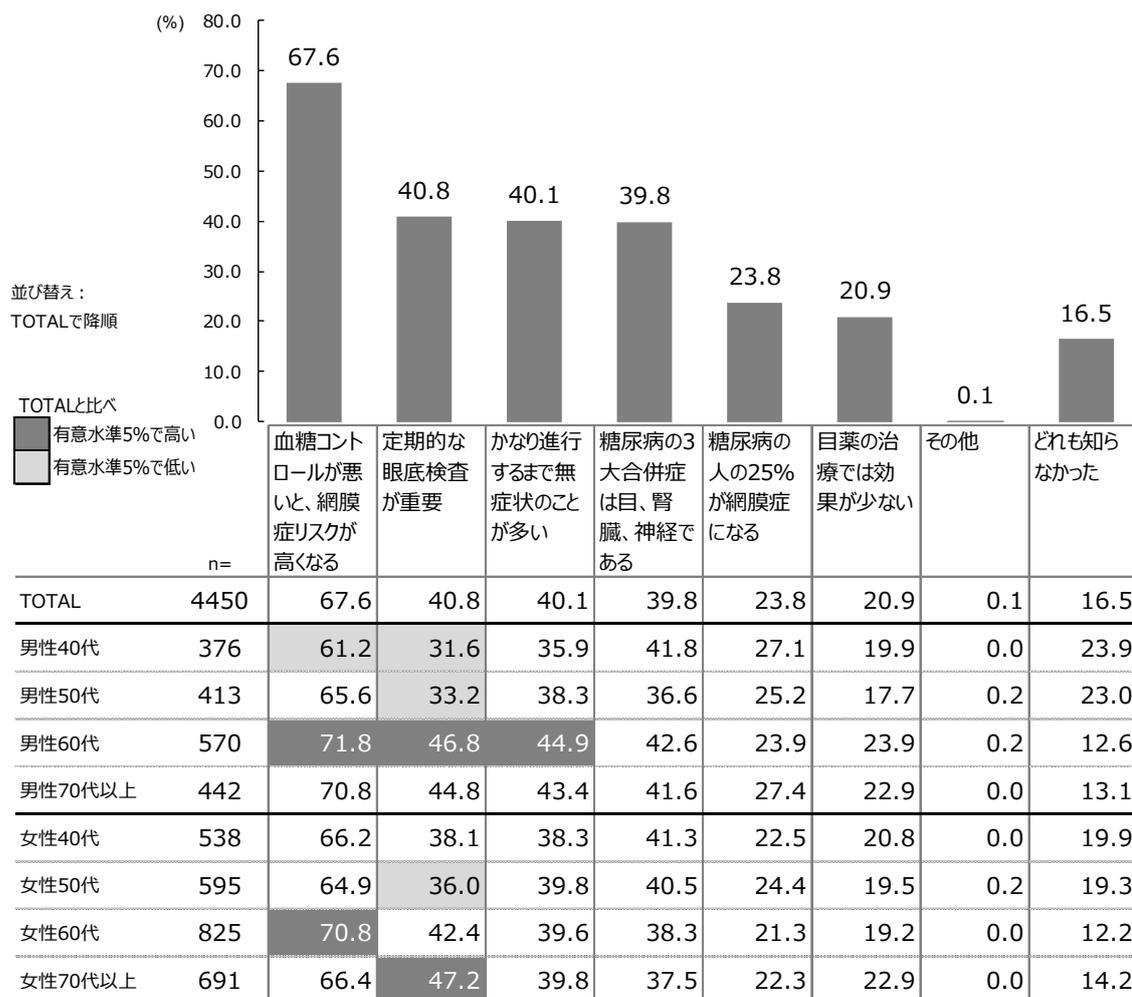
性・年代別では、男性 70 代以上、女性 60 代、70 代以上は緑内障について知っている割合が高いが、男性の 40 代と 50 代、女性 40 代の3～4割が「どれも知らなかった」と回答している。

<緑内障について知っていること>



糖尿病網膜症についても、具体的に特徴を示して聞いたところ、「血糖コントロールが悪いと、網膜症リスクが高くなる」67.6%が最も高く、7割近くが知っていると回答。大きくポイントを下げて、「定期的な眼底検査が重要」40.8%、「かなり進行するまで無症状のことが多い」40.1%が続くが、男性40代、50代では「どれも知らなかった」が2割以上を占める。

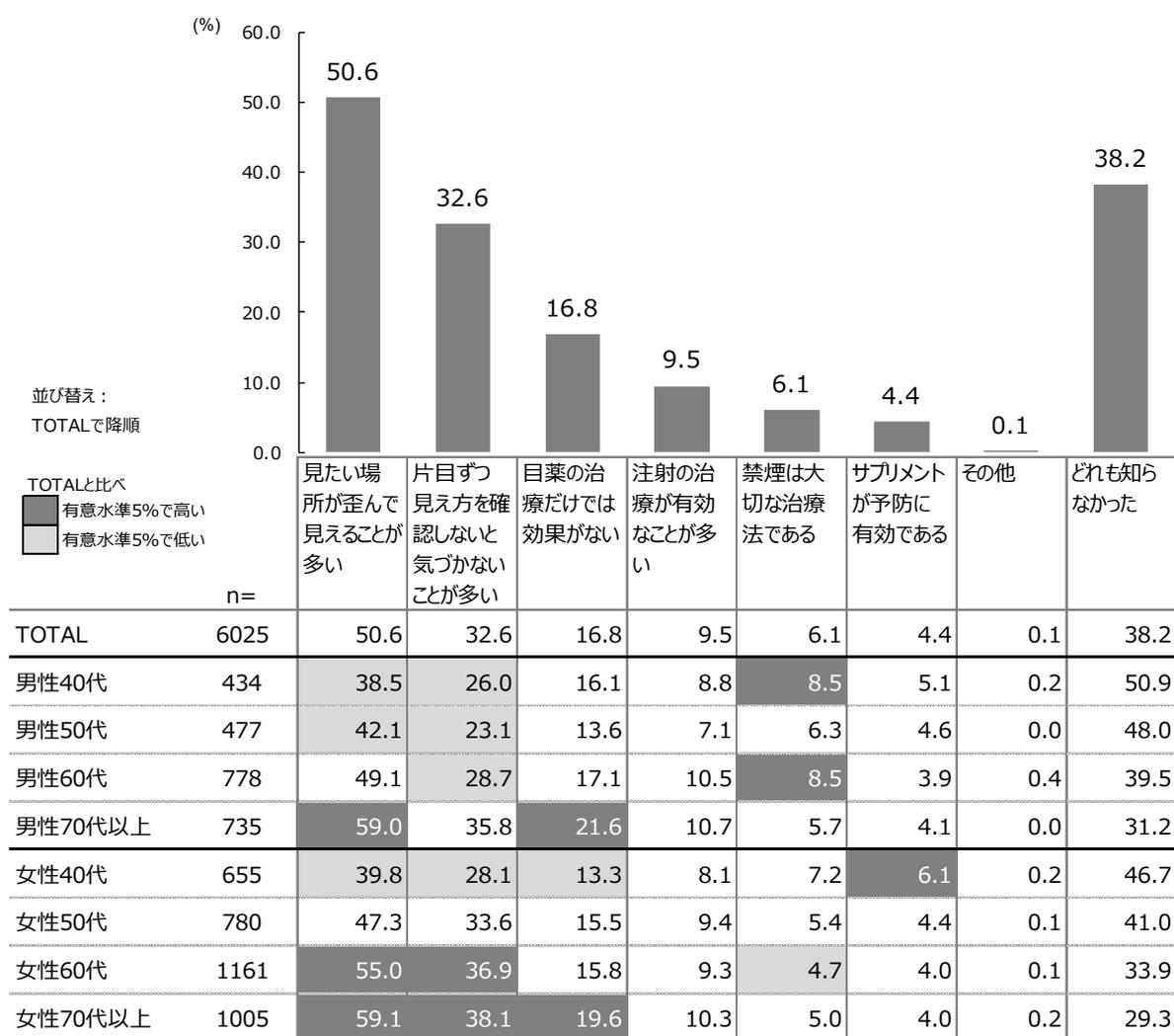
<糖尿病網膜症について知っていること>



加齢黄斑変性についても聞いたところ、「見たい場所が歪んで見えることが多い」が最も高く、50.6%。「片目ずつ見え方を確認しないと気づかないことが多い」32.6%、「目薬の治療だけでは効果がない」16.8%が続く。「どれも知らなかった」は38.2%で、緑内障や糖尿病網膜症に比べ、内容の理解度は低い。

特に、男性 40 代、50 代では半数前後が「どれも知らなかった」と回答している。

<糖尿病網膜症について知っていること>



4. 緑内障と診断されたのは6.4%。その6割は「何も問題を感じていなかった」

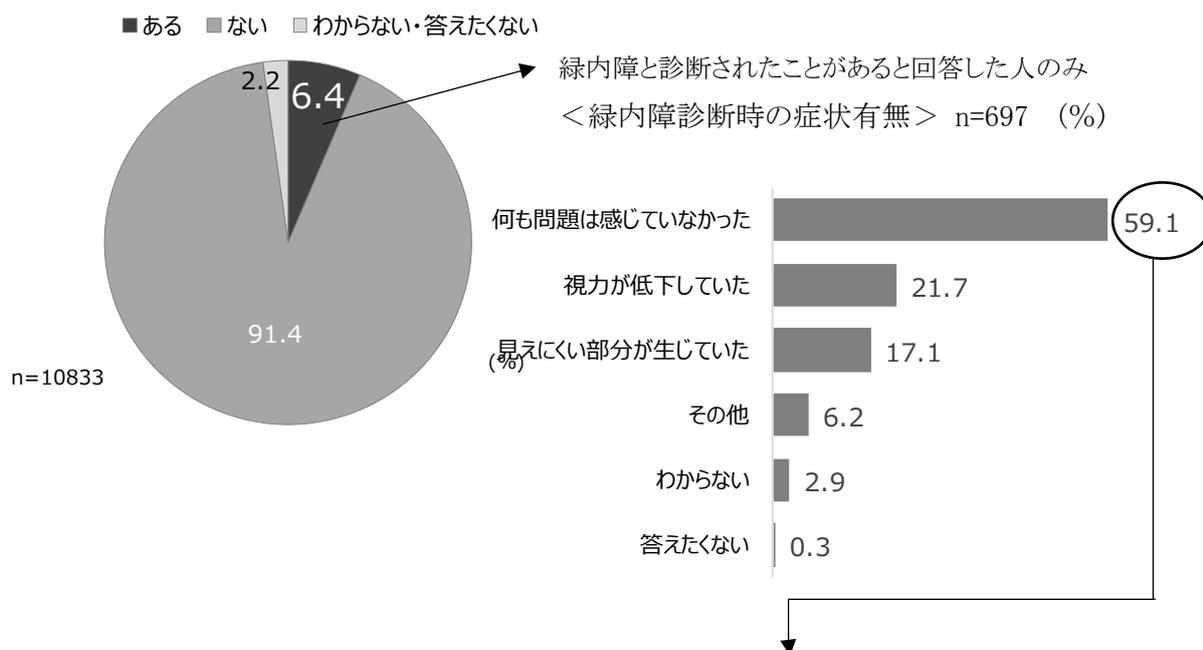
緑内障と診断されたと回答した割合は、全体の6.4%で、男性70代以上では11.3%、女性70代以上では9.0%である。

緑内障の診断を受けたときの状態は、「何も問題は感じていなかった」が最も高く、59.1%。「視力が低下していた」21.7%、「見えにくい部分が生じていた」17.1%が続く。

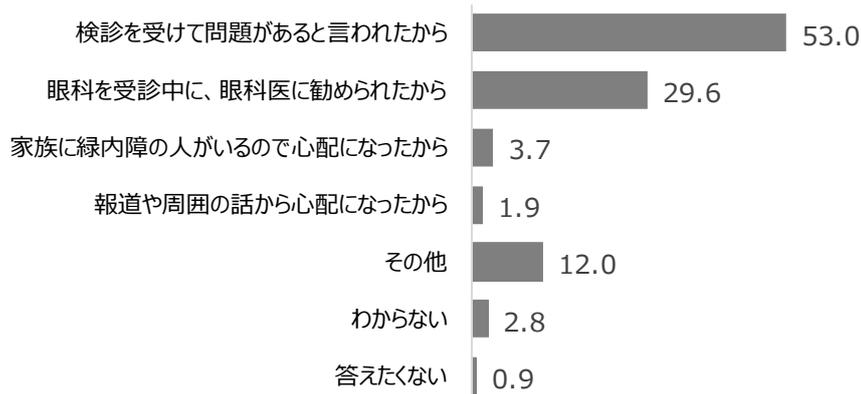
「何も問題は感じていなかった」人に、眼科を受診した理由を聞いたところ、「検診を受けて問題があると言われたから」(53.0%)、「眼科を受診中に、眼科医に勧められたから」(29.6%)である。

男性40代では「家族に緑内障の人がいるので心配になったから」(12.9%)が他の年代よりも高く、若くとも緑内障を疑って受診するきっかけとなっている。

< 緑内障と診断されたことがある割合 >



緑内障診断時に「何も問題は感じていなかった」と回答した人のみ
< 症状を感じていなくても眼科を受診した理由 > n=432 (%)



5. 女性 50 代の 7 割超がアイフレイルを感じている。

アイフレイルという言葉を普及するにあたって、まず、「フレイル」という言葉がどのくらい知られているのか、聞いた。「言葉の意味を知っている」が 9.4%、「聞いたことがある程度」が 17.8%で、「聞いたことがない」は 72.9%である。

年代が高くなるにつれて認知度は高くなるが、最も高い女性 70 代以上でも「聞いたことがない」が半数以上 (52.9%) である。

<「フレイル」という言葉の認知度>

	n=	■ 言葉の意味を知っている ■ 聞いたことがある程度 ■ 聞いたことがない			(%)
TOTAL	13157	9.4	17.8	72.9	
男性40代	1793	6.2	11.5	82.3	
男性50代	1551	5.2	10.4	84.4	
男性60代	1767	6.5	14.7	78.8	
男性70代以上	1309	10.6	18.6	70.7	
女性40代	1808	6.4	15.0	78.7	
女性50代	1544	9.5	19.4	71.1	
女性60代	1877	13.5	24.3	62.2	
女性70代以上	1508	18.2	29.0	52.9	

次に、「アイフレイル」を感じているか、聞いたところ、全体の 6 割が感じていると回答。特に女性の 50 代は 71.4%と高い。

<「アイフレイル」を感じている割合>

	n=	■ とても感じている ■ 少し感じている ■ あまり感じていない ■ まったく感じていない				感じている (計)
TOTAL	13157	14.6	45.4	29.1	10.9	60.0
男性40代	1793	9.1	36.8	34.2	19.9	45.9
男性50代	1551	15.4	44.0	27.6	13.0	59.4
男性60代	1767	13.5	45.6	31.0	10.0	59.1
男性70代以上	1309	15.7	44.0	30.6	9.6	59.7
女性40代	1808	9.3	42.0	33.6	15.0	51.3
女性50代	1544	20.6	50.8	21.8	6.9	71.4
女性60代	1877	18.6	51.3	24.9	5.2	69.9
女性70代以上	1508	16.0	49.2	28.8	6.0	65.2

次に、目の検査や治療に対する考えを聞いたところ、「健康診断や人間ドックに目の検査が含まれていれば、その際に検査したい」が最も高く、25.7%。「目の機能低下の予防になるなら、何も症状がないうちに眼科で検査したい」23.1%が続く。

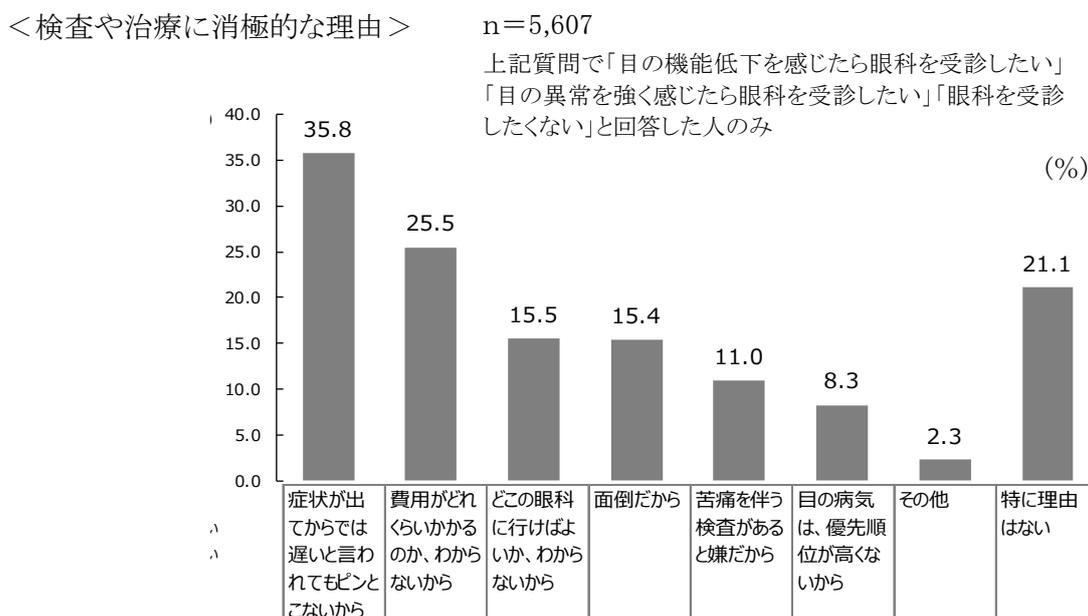
<目の検査や治療に対する考え>

- 目の機能低下の予防になるなら、何も症状がないうちに眼科で検査したい
- 健康診断や人間ドックに目の検査が含まれていれば、その際に検査したい
- 目に機能低下を感じたら眼科を受診したい
- 目の異常を強く感じたら眼科を受診したい
- 眼科を受診したくない
- わからない

(%)

	n=	23.1	25.7	21.9	17.4	3.3	8.5
TOTAL	13157						
男性40代	1793	19.6	27.2	17.2	15.4	6.2	14.3
男性50代	1551	19.0	27.6	16.4	19.1	4.8	13.0
男性60代	1767	19.9	25.9	21.6	19.4	3.5	9.7
男性70代以上	1309	23.8	18.4	28.5	21.5	1.7	6.2
女性40代	1808	23.5	31.4	20.4	13.8	2.9	8.1
女性50代	1544	26.4	30.1	19.9	15.0	3.1	5.6
女性60代	1877	25.7	23.9	24.8	18.0	1.9	5.6
女性70代以上	1508	27.9	19.2	28.1	18.4	1.7	4.7

検査や治療に対して消極的な人に理由を聞いたところ、「症状が出てからでは遅いと言われてもピンとこないから」が最も高く、35.8%。「費用がどれくらいかかるのか、わからないから」25.5%、「どこの眼科に行けばよいか、わからないから」15.5%が続く。



アイフレイルの検査意向はどの程度あるのか、具体的に検査方法の事例として「見え方を片目ずつチェック」「眼圧を測定」「目の精密な検査を行い、異常や衰えがないか確認」の3つを示して聞いたところ、「ぜひ、受けてい」が25.8%、「どちらかといえば受けてい」が49.9%で、受診意向は全体の75.7%であった。

特に、男性よりも女性の受診意向が高く、いずれの年代でも8割前後となっている。

<アイフレイルの検査の受診意向（検査方法の事例を提示した場合）>

■ぜひ、受けてい ■どちらかといえば受けてい ■どちらかといえば受けたくない ■受けたくない □わからない

	n=	(%)					受けてい (計)
TOTAL	13157	25.8	49.9	8.2	3.5	12.6	75.7
男性40代	1793	19.9	47.6	9.6	5.4	17.5	67.5
男性50代	1551	20.8	47.3	10.3	5.0	16.6	68.1
男性60代	1767	22.0	50.7	8.8	4.7	13.8	72.7
男性70代以上	1309	28.3	47.5	9.3	3.2	11.7	75.8
女性40代	1808	27.7	52.3	6.7	2.2	11.2	80.0
女性50代	1544	28.2	51.6	5.9	2.8	11.5	79.8
女性60代	1877	28.7	51.8	7.9	2.5	9.2	80.5
女性70代以上	1508	32.0	49.3	7.5	2.0	9.2	81.3

6. 「これまでの人生を振り返り、もっとこうしておけばよかったと思うこと」

本調査の最後に、自由回答で「人生100年の時代、年を重ねても目の健康を守っていく大切さを次世代に伝えていくために、あなたが、これまでの人生を振り返り、もっとこうしておけばよかったと思うことはありますか」と聞いたところ、5,565件の回答があった。

主な内容と代表的な意見は以下のとおりである。

視力低下・老眼等の見えにくさ、目の疾患に関する意見	
子供の頃、暗い場所で本を読むことが多く、それが原因で近視になったので、そういう事をしなければ良かったと思った。	男性 50代
小学生の時に近視が良くなる目薬をちゃんとつけたり、遠くを見たりする目のトレーニングをきちんとやったりしておけば良かったと思う。	女性 40代
もっと目の健康について考えるべきでした。痛みとかならないものだから、視力が悪いなら、眼鏡があると、コンタクトがあるとかで、真剣に考えなかった。	女性 60代
ドライアイになっているので兆候が表れた頃に治療を開始していれば今のような点眼治療をしなくても済んだのではないかと考えている	男性 60代
30代の頃からゴルフに凝っていてサングラスなしでプレーしていました。サングラスしていれば70代になって加齢黄斑変性で苦労しないで済んだのではないかと後悔しています。	男性 70代以上

近視の予防の大切さ 常にコンタクトを使用しなければならない煩わしさ、長期間の強矯正 女性 40 代
に伴う緑内障のリスク等について子どもの頃にきちんと認識しておけばよかった

もっと早く網膜色素変性症のことを知っておきたかった。体育で球技のときボールがよけられ 女性 50 代
なくて何度もけがをした。

眼鏡・コンタクトレンズに関する意見

中学生の時から眼鏡を使用し続けてきたが、ちょっとでも視力に異常を感じたら、我慢してそ 男性 70 代以上
のままにしておかず、目にあった眼鏡を調整してもらったり、買い替えたりした方が良い。

コンタクトレンズを外さずに寝て目を傷めた事もあったので、きちんと外していればと思う。 女性 40 代

コンタクトレンズが、医師の診断書がなくてもネットで買えるようになり、定期検診をしていなか 女性 60 代
ったため、緑内障になっていたことに気づくのが遅くなってしまった。病院で購入していれば、良かったと後悔している。

コンタクトレンズの合わないものを使用し続けて今痛くて全く使用できない。我慢せずに相談 女性 40 代
すれば良かったと思っている

メガネを作ってから10数年間も受診しなかったのが、数年に一度でも、1～2年に一度でも受 女性 60 代
診すればよかったと思う。

眼科の受診、目の検査・健診に関する意見

飛蚊症ですがいつからなのか自覚がなく若い時から定期的に診察を受けていたらもっと防げ 女性 50 代
たのではないかと思います。

かなり重症のドライアイになっていたのに、長年気づかずにいました。定期的に目の検査は 女性 50 代
受けるべきだと思います。

幸いに目の疲れとドライアイの症状で眼科で緑内障に気付いたから良かったけれど、人間ド 男性 60 代
ックで眼圧が高めと指摘された時点で検査をすれば良かったかもしれない。

定期的な健康診断で緑内障がわかって、現在の視力を維持できるように治療中。症状がな 女性 50 代
かったのが健康診断を受けていなければ、気づく事ができなかったと思う。

歯科とかは定期的にクリーニングに行くが眼科はそういう文化はない。健康診断で一年に一 女性 60 代
回見てもらえれば大丈夫と思ってきたが、パソコンとかスマホとか目を酷使する時間が長くな
って来ているので、目に良い事を教えてほしいし、したい。

健康診断では視力検査しかしてないが、もう少し異常がわかる検査を入れて欲しかった 女性 50 代

若い頃から、視野の片目確認を知っていれば、こうはならなかったと思う。もっと一般健康 女性 60 代
診断に組み入れるとか、広報を拡充するとかあるといいと思う。

目の健康維持・疾患予防に関する意見

この年になって、目と歯は一度悪くなると戻れないと実感している。子どもの時から学校など 女性 70 代以上
で目や歯の健康維持や予防を啓発していくことが大事と思う。

子どものうちは紫外線を浴びることも必要だけど、ある程度年とったら偏光レンズ眼鏡等で目 女性 40 代
を守るべきだった。睡眠時間をしっかりとって目の修復を行うべきだった。

遺伝、生活習慣、環境など目の健康を守るための個人に合わせた具体的な改善方法を知っ 女性 40 代
ていたら、前向きに取り入れて過ごせたとと思います。

毎日、何回も鏡で目を見ていたのに、視力以外のことに気を使うことがなかったのが、もっと 女性 60 代
眼の体操、目に良い食べ物なども知っておきたいです。

7. 調査結果を活かして「アイフレイル啓発活動」をスタート

今回の調査で、まず、明らかになったのが、アイフレイル世代の2人に1人が目に不自由や不安を感じているにもかかわらず、普段から健康維持・疾病予防に努めている人はその半分程度しかいないということである。

健康維持のための情報が行き届いている歯や足腰に比べて、目は、そのような情報が流通していないこと、そもそも自分で努力できることが少ないこと、などが課題であると考えられる。

しかし、50代、特に女性を中心に、アイフレイルを感じている割合や関心が高いことも確認することができた。

今後、展開する「アイフレイル啓発活動」では、目の健康に対する関心喚起はもちろんのこと、目の疾病について理解を促進し、自分の目のために一人ひとりができることは何か、有用な情報を提供し、目の健康寿命の延伸につながる有益な行動を促していきたいと考えている。

ホームページやポスターのキャッチフレーズは「がんばってきた目とこれからも仲良く」とし、「もっと目のことを知りたい」「目のためになることを自分でも何かしたい」という前向きで意欲的なアイフレイル世代に共感していただける言葉で呼びかけていく。

ロゴマークも、「アイ(目)」と「フレイル」という2つの言葉で成り立っていることがわかるよう、「アイ」の2文字を優しい手で包む温かみのあるデザインとし、アイフレイル啓発活動の狙いを一言で伝えるタグライン「目の健康寿命をのばそう」を添えている。

新たに、アイフレイルを疑う目安となる症状をイラストとともに示した「セルフチェック」項目も作成し、何か気になること、心配なことがあれば、眼科に相談するきっかけをつくっている。

今後、関係者の皆様と協力して、よりよい内容へと充実・発展させていきたいと考えている。

以上